

# 令和元年度 思いやりデイサービス 事業報告書

## 1. 運営状況の概要

富士市の委託による生きがいデイサービス・健康づくりデイサービスは、平成30年度から、要支援2の方を除き週1回の利用のみとなった。しかし、週2回の利用を望む利用者が多く、その要望に応えるため、社会福祉法人としての社会貢献の観点から、鑑石園独自のサービスとして思いやりデイサービスを始めた。

平成30年6月から正式に開始し、平成30年度の1回あたり平均利用者数は7.68人となった。しかし利用者が高齢のため、逝去される方、要介護の認定が出て思いやりデイサービスが利用できなくなる方が続出し、本年度の1回あたり平均利用者数は5.83人となった。

## 2. 事業計画実施状況

### (1) 職員資質の向上のために

#### ① 職員信条について

職員信条を遵守する事で、高い意識と自覚のもと業務に努めた。

#### ② 研修について

思いやりデイサービスは鑑石園独自の事業であるため、特別な研修はないが、内容的には生きがいデイサービス・健康づくりデイサービスとほぼ同じため、生きがいデイサービス・健康づくりデイサービス関連の外部研修や内部研修へ積極的に参加し、自己研鑽に努めた。

出席した主な外部研修は以下の通り。

7月	健康づくりデイサービス・生きがいデイサービス従事者研修	富士市保健部 高齢者支援課主催
11月	富士市介護予防・日常生活支援総合事業サービス事業所研修会	同上
2月	吉原中部地域包括支援センター圏域内他職種連携会議	吉原中部地域包括支援センター主催

### (2) サービスの向上に向けて

#### ① 相談援助などの生活指導

利用者及び家族とのコミュニケーションを重視し、気軽に相談を寄せて貰えるような関係づくりに努めた。また、利用者が家族と良好な関係を保ちつつ、自宅で快適な生活を送ることができるよう、高齢者地域支援

窓口や地域包括支援センター、原田清流クラブの担当者と連携をとりながら、できる限りの支援を行った。

#### ②レクリエーション・趣味活動他

利用者の希望や趣向を取り入れたプログラム内容を実施することにより、利用者が楽しみながら活動に参加し、自ら介護予防にむけた主体的な取り組みを行うことができるよう支援した。

また、日常生活でもできるような介護予防運動を毎回行い、利用者の全身の機能の向上に努めた。

#### ③健康状態の確認

個々の利用者の身体的な特徴を事前に把握した上で、毎朝利用開始時に健康状態を確認し、サービス提供中も常に気を配った。

健康面に不安のある利用者に関しては、施設内の医務、主治医や歯科医師とも連携をとる体勢で臨んだが、特に問題は生じなかった。

#### ④利用者とのコミュニケーション

利用者と積極的にコミュニケーションをとり、利用者が主体的に事業へ参加するよう働きかけた。

#### ⑤送迎

送迎を必要とする場合は、施設車輛にて自宅から施設まで送迎を行った。

#### ⑥その他

介護技術の進歩に合わせた、適切な介護予防が行われるよう配慮した。

### (3) 広報

「生きがいデイサービス」又は「健康づくりデイサービス」を既に週1回利用している方、又は新規利用を考えている方で、週2回の利用を希望される方に対して思いやりデイサービスを紹介した。

「生きがいデイサービス」、「健康づくりデイサービス」の広報活動を行う際、思いやりデイサービスの事業内容についても紹介し、利用者を募った。

令和元年度 思いやりデイサービスの主な内容

4月	体操・脳トレクイズ・歌と踊りのボランティア(ゆりの会)など
5月	体操・脳トレクイズ・カラオケで合唱など
6月	体操・脳トレクイズ・デイ合同バイキングなど
7月	体操・脳トレクイズ・DVDによる脳トレなど
8月	体操・脳トレクイズ・カラオケで合唱など
9月	体操・脳トレクイズ・DVDによる脳トレなど
10月	体操・脳トレクイズ・DVDによる脳トレなど
11月	体操・脳トレクイズ・ペットボトルでボーリング大会など
12月	体操・脳トレクイズ・クリスマスの歌の合唱など
1月	体操・脳トレクイズ・DVDによる脳トレなど
2月	体操・脳トレクイズ・岩本山公園見学など
3月	体操・脳トレクイズ・DVDによる脳トレなど